

2019 年度 北海道慢性期医療協会・講演会

4月13日（土）札幌市社会福祉総合センターにて、当院の名誉院長 中川翼が会長を務める、北海道慢性期医療協会の講演会が開催されました。今年度は医療法人社団裕和会・理事長、長尾クリニック・院長の「長尾和宏」先生を招き『慢性期医療の今日的課題～ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を考える～』をテーマに道内の医療機関から207名の参加がありました。

はじめに、札幌総合法律事務所の弁護士「福田直之」先生から「ACPにおける法律家としてのアプローチ」について講演を頂き、社会医療法人恵和会西岡病院の副院長「五十嵐知文」先生から「（とよひら・りんく）におけるACPの取り組み」、看護主任「佐藤まどか」様から「療養病棟の看護職におけるACPに関する記録報告」、医療法人溪仁会定山溪病院の地域連携室長補佐「塚本晃平」から「慢性期医療機関のMSWが考えるACP」について講演を頂きました。

特別講演として長尾先生からは「リビングウィルとACP」について1時間の講演を頂き、多様化する看取りの場が、地域でどう動いていくか、ACPは我々自身の問題である。また、3月に東京都福生市の公立福生病院で起きた「人工透析中止」による死亡の事例から、終末期、尊厳死、人生会議について述べられました。

講演会後のシンポジウムでは、胃瘻について意見が異なる家族、緩和ケア、救急医療との連携など様々な話題となり活発な意見が交わされました。

